

令和 8 年度 学校経営計画書

学校番号	31	学 校 名	静岡県立清水東高等学校	校 長 名	山崎 文則
------	----	-------	-------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

普通科と県内で初めて設置された理数科を併設する文武両道を目指す学校として、文理の枠にとらわれず、SSH 活動で培われる科学的思考力や探究心を養う教育を通して、国内外で活躍し、社会にイノベーションを起こすリーダー人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
科学的思考力や探究心を養う教育を通して、国内外で活躍し、社会にイノベーションを起こすリーダー人材を育成する。	SSH 活動を軸に、論理的・科学的・探究的な学びと活動を通して、生徒の自己実現の道筋を明確化させる。	校訓「金剛の意志」の実現に向け、探究活動に積極的に取り組み、グローバルなコミュニケーション力を伸ばし、地域や国際社会での活躍を目指す生徒を求める。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 安全安心な学校
- イ 健康でたくましい心身の育成
- ウ 授業力向上と主体的な学びの充実
- エ SSH 活動の深化
- オ 進路意識の明確化
- カ 社会のリーダーとして活躍できる人材の育成
- キ ICT 教育の推進
- ク ワーク・ライフバランスの推進
- ケ 確実に効果的な学校事務執行の推進

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	いじめの根絶	- いじめ防止対策基本方針に基づく取組を実施 - スマートフォン等の使い方の指導の充実、スマートフォン講座の実施 - いじめアンケートを年2回実施	- いじめに対するトラブルの事前防止 - いじめへの対処の確実な実施 - ネットに関係するトラブル：0件 「誰に対しても相手の気持ちを大切にしている」と答える生徒の割合：95%	生徒
	授業中、部活動中、登下校中（特に自転車）の事故防止	- 学習活動に使用する設備等の環境整備を進める。 - 保護者と連携した登校指導の実施 - 警察と連携し、新入生に対して交通安全教室を実施 - 自転車のヘルメット着用に向けた取組の推進 - 自転車の法改正に係る指導 - 突発的事故を想定した講習の実施 - 熱中症警戒アラート発令時は、全職員に周知し、特に体育授業において適切な対応をとってもらうように体育科と連携する。 「保健だより」による安全の呼び掛け	- 授業中の事故0件 - 登下校時の自転車事故件数2割減 - 職員対象のAED講習会の実施 - 校内活動中に熱中症重症者を出さない。 「保健だより」毎月発行	生徒 教務 保健
	防災対策の充実	- Cラーニング、Google クラスルームを防災連絡ツールとして活用 - 家庭と連携した防災意識の高揚 - 荒天時、JR 運休時など、連絡の早期伝達	- Cラーニング、Google クラスルームによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施 - 防災訓練を年2回実施	総務
	学校施設の環境保全	美化委員会による清掃点検や呼びかけにより、校舎内を美しく保つ意識を高める。	「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：90%	事務 保健
	感染症の予防	- 感染症から身を守る意識の徹底 - 毎日の健康観察・手洗い・換気の徹底 - 保健だよりでの呼びかけを随時行う。	「毎日の健康観察や手洗い・換気を行っている」と答える生徒の割合：90%	保健
	学びの継続	- 教務面談の実施と遠隔授業の説明 - 学年会議や文書共有 DB 等を活用した生徒情報の共有	不本意な転学・退学となる生徒を出さない指導を行う。	教務 生徒 学年
イ	欠席、遅刻、早退の減少	出欠統計調査を行い、過年度との比較を行う。	欠席数が過年度平均の8割以下となることを目指す。	教務 生徒 学年
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	グループエンカウンターにより、初期段階での人間関係のつまづきをなくす。	「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：90%	保健 学年
	部活動の充実、成績の向上	- 効率の良い部活動運営 - 外部人材の活用、「清高健児を応援する会」による適切な部活動支援 - 部活動の在り方（活動時間、部活動の数）に関する検討	「部活動が充実している」と答える生徒の割合：75% 「設定した部活動ガイドラインを順守している」に「かなり当てはまる」と答える教員の割合：75%	生徒

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ウ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	・主体的、対話的で深い学びを意識した授業実践の充実を図る。 ・生徒による授業評価を実施し、客観的把握に基づいた授業改善を図る。 ・校内での授業交流や他校の研究授業等、様々な研修機会を活用する。 ・遠隔授業の効果的実施に向けた情報共有	・全教員が講義形式に依らない授業展開の工夫を実践する。（各自学期に 1 回以上） ・生徒による授業評価を年 2 回実施 ・「授業の内容がよく分かる」と答える生徒の割合：85% ・授業で行われる「グループ学習に積極的に取り組んでいる」と答える生徒の割合：90% ・年間 2 回以上、他の教員の授業を見学した教員の割合：70%	研修 教務 全職員
エ	SSH 活動の深化	・本校の SSH の在り方、方針の共有 ・SSH 活動の中核となる課題研究の充実 ・課題研究プログラムの改善と普及 ・各種発表会、コンテストへの参加 ・不思議実験講座等普及活動の充実 ・国立遺伝学研究所等への訪問	・「課題研究を中心とした SSH 活動は有意義である」と答える生徒の割合：90% ・不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5 点（4 点中） ・国立遺伝学研究所等への訪問は有意義だった」と答える生徒の割合：90%	SSH 理数科
	「行きたい学校づくり」推進事業の充実	・探究コンソーシアムによる清水区 5 校の連携の充実 ・大学等と連携した課題研究の深化	・他 4 校と連携した探究活動（生徒が関わる実践）：2 回以上 ・2 年普通科における大学生等との連携：各クラス 2 回以上 ・2 年理数科における専門家との連携：各グループ 3 回以上	SSH 理数科
オ	基礎学力の定着（校内学力試験の利用）	・観点別の学習評価の検証 ・テスト実施後の個票返却を通じた振り返りの活動支援 ・多様な生徒のレベルに確実に対応出来るための教員の授業力向上 ・全学年での英数国週テスト実施 ・特指、土曜講座等の適切な実施 ・外部教育機関の研修への参加促進	・今年度の評価結果について分析し、新たな学習評価を研究する。 ・テスト返却 1 週間後の個票返却 ・「授業の内容がよく分かる」と答える生徒の割合：85% ・「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90%	教務 進路

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	個に合った適切な進路指導、進路面談の充実	・新しい学力観や新テストの導入など高大接続の現状に対応した情報の発信 ・情報収集やデータ分析の生徒・職員への提示 ・進路目標を具体化するための大学訪問の実施 ・オープンキャンパスへの参加奨励 ・年間3回以上の面談を行い、進路実現を促す。 ・新旧担任連絡会の実施 ・校内進路検討会の年2回の実施 ・進路講演会の実施 ・進路目標を意識するよう目標点を設定した校外模試、ハイレベル模試の実施 ・プロフェッショナルと語る会の実施 ・SSH活動を通じた社会貢献の意識の育成 ・何をどのように学ぶかを考える機会として理数科では大学・研究所等の訪問を実施し、個々の進路実現につなげる。	・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80% ・オープンキャンパスへの2年次までの参加：90% ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70% ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80% ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：90% ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：90% ・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80% ・「大学・研究所等の訪問は意義があった」と答える生徒の割合：90%	進路 理数科 SSH 学年
	個の実力にあった文理選択（1年生）	・自己を的確に理解し、個に応じた進路目標を確立させる。 ・難関大志望者の意識を高める。 ・適性検査、進路希望調査、受験科目調べを行う。 ・「進路ノート」「進学資料&合格体験記」「最新大学情報」の活用 ・計画的な文理選択の方法の確立	・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料&合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：85% ・不本意な文理選択となる生徒を出さない指導を行う。	教務 進路 学年
カ	生徒会活動、ボランティア活動の充実	・学校行事の生徒による自主的運営と地域との連携を図る。 ・各部活動単位でのボランティア活動への参加呼びかけ	・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：90% ・各部活動で1回以上ボランティア活動や地域との連携活動を実施した割合：80%	生徒
	研究旅行の充実	・普通科：日本文化の理解を深め、国際交流も取り入れる。班別研修では生徒が主体的に計画し行動する。 ・理数科：国立台湾師範大学及び附属高級中学と連携して英語によるポスターセッションを行う。班別研修では生徒が主体的に計画し行動する。	・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：90%	学年 理数科

様式第 1 号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
キ	BYOD による ICT を活用した授業の実践	・学習効果を上げる BYOD 活用法の充実 ・教育用アプリ（ロイロノートなど）の活用	・「ICT 機器を授業や学習で有効活用できている」と答える生徒の割合：90%	教務 情報 管理
	HP、広報活動によるアドミッシン・ポリシーの実現	・学校 web ページへの記事掲載を充実させる。 ・SNS の活用 ・生徒が中学生に本校の魅力を発信する機会の創出	・探究活動を中心に教務部記事を月 1 回のペースで掲載する。 ・公式 SNS の開設 ・生徒による出身中学校での学校紹介の実施	情報 管理
ク	休暇取得促進日の設定	・8月12日（水）から14日（金）又は17日（月）から19日（水）の3日間を休暇取得促進日として設定する。	・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合：80%	管理職 全職員
	業務の見直し、スクラップの推進	・ICT の環境整備を推進し、業務の効率化やペーパーレスの推進・牽引を図る。 ・面談、声掛けを通して、残留職員の固定化を防ぐ。	・印刷紙の使用量 1 割減を目指す。 ・19:30 以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。	管理職 全分掌 全学年
ケ	事務室運営の効率化	・事務を見直し、業務の精選及び簡素化を図る。 ・総務事務の集中化に係る職員減に対応する。	・前年度時間外勤務実績の縮減	事 務
	法令遵守の徹底	・マニュアル等に沿ったチェックの徹底 ・学校徴収金等事務処理基準に沿った業務処理の遵守 ・個人情報の適正な管理	・会計監査・検査における指摘等 1 件以下 ・学校徴収金等の徴収、決算報告等に係る保護者への通知を確実かつ適時に行う。 ・個人情報の適正な保管による紛失及び漏洩事故 0 件	事 務 全学年
	安全安心な教育環境の維持	・定期的な校内施設の点検 ・施設・設備の迅速な修繕等の実施 ・計画的な物品等の整備	・月 2 回以上の施設点検と法令点検指摘箇所の速やかな改修 ・施設・設備に起因する事故 0 件 ・学校経営予算の計画的な執行	事 務